

JR東海労なごや

2018年10月18日No.1120

JR東海労名古屋地方本部

発行者：荻野隆一

編集者：教宣部

原因は違えど踏切無遮断の事象は同じだ！

JR東海労名古屋地本は7月31日、名松線権現前～伊勢八太間の第二片野踏切において踏切無遮断が発生した事に対して、8月30日に「申7号名松線、第二片野踏切故障に関する申し入れ」を行ってきました。10月16日、申7号について業務委員会を開催しました。

今回の事象は、列車が接近しているにも関わらず一度降下した遮断桿が再度上昇し列車通過時は、無遮断！運転士は直ちに非常ブレーキを扱うも約100m行き過ぎて停車しました。幸いにも早朝で通行人も居なく死傷者は出ませんでした。一歩間違えれば重大な事故に繋がる事象でした。

一度降下した遮断桿が列車通過前に再度、上昇するのか？

原因として会社は、3日前接近した台風12号による強風により現場付近の雑木林から枝葉が飛来し車輪が踏み固めた事による、軌道回路の短絡不良により列車を検知できなくなった事が原因と回答しました。一般的に、踏切動作は始動点を通すれば終動点を通すまで踏切は降下していると思われています。しかし、始動点通過後も連続した軌道回路があり短絡不良が発生すると踏切動作が不可能となる構造の踏切が東海鉄事管内で37箇所あると判明しました。対策として今後、一度踏切が鳴動したら列車検知ができなくなっても鳴動を継続させるように回路変更を確認しました。

信用失墜に繋がる事象だ。真摯に事態を受け止めよ！

前回の紀勢線阿野田踏切故障と原因は違いますが、2度も踏切無遮断があった事実は、社会的にも信用失墜に繋がります。会社は、社員のミスには会社の信用失墜に繋がると徹底した責任追及をしています。設備の不具合に対しては、この間、メーカーの問題・機器を取り替えるから問題はない等、会社としての責任を認める姿勢が感じられません。私たち東海労名古屋地本は、このような姿勢を認めることはできません。

安全のためには万全の方策をとらなければならない！
東海労名古屋地本は安全問題に妥協しない！！